

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102942		
法人名	ライト・ドリーム株式会社		
事業所名	グループホーム華の苑		
所在地	長崎市中里町1188-1		
自己評価作成日	平成24年12月20日	評価結果市町村受理日	平成25年4月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りを山、川に囲まれた自然豊かな地域の中でご入居様をはじめ、ご家族様が安心して生活できるように、報告・連絡・相談を行ない、地域の皆様やご家族様を含めたチームケアを目指している。又、様々な行事などを実施し、生きがいを感じていただけるようなアプローチをしている。介護スタッフは家庭的な感情の中で、日常生活における援助を行ない、認知症の進行を穏やかに、また精神的に安定し、個人の尊厳が保たれ、健康的で自分らしい生活が送れるように支援していく。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成25年1月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道に近く、川や山に囲まれた自然豊かな場所に位置している。事業主体が変わり1年半経過するが、変更前からの理念を引き継いでおり、利用者に決定してもらうような声かけや利用者主体の個別ケア、更に利用者自身でできることは行ってもらう自立を促す支援を行っている。この1年半で職員の入れ替わり等があったが就業規則の見直しや休憩時間の確保等により、以前に比べて意見が言いやすい環境となり、職員間のチームワークが良くなったと職員の声で確認できる。職員が利用者と一緒にゆったりとした時間を過ごすことで、利用者が落ち着きを取り戻し、職員の対応で利用者も変わることを実感し引き続き理念に基づく支援を心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内事務所、1Fホール外壁掲示板に掲示し、地域の皆様、訪ねてくる皆様にも理解して頂けるようにしている。	運営母体が変わっても開設当初からの理念を引き継いでおり、ホーム内に掲示している。理念の「主体はご入居の方です。」を基に職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握し個別ケアを行い、大幅な職員交代はあったものの変わらない支援ができるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事への参加を通して、地域の方々との交流し、顔見知りの関係を築いている。	自治会副会長を通じて毎月「苑だより」を回覧板で回している。また、近隣の方に事業所の畑の管理や草むしり、収穫を手伝ってもらっている。新しい管理者・職員は土地鑑がないため、地域商店での買物や地域主催の夏祭り等に参加しているが、地域との顔なじみの関係構築はこれからである。	今後は地域の幼稚園、学校等との交流や事業所の行事へ地域住民が気軽に参加できるように、地域に対する積極的な呼びかけが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方が見学に来られた時、グループホームではどのような暮らしをしているかや、支援の方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の行事や取り組み状況の報告を通して、皆様からの意見を頂くことにより、今後のサービス向上に活かしている。	2ヶ月毎、偶数月に規程のメンバーで開催している。会議では行事報告や研修報告、質問や要望等話し合いが行われている。包括職員から報告の方式を変えてはどうかとの意見があり、事故や研修の詳細や写真付で行事内容の報告をするなど意見を活かしサービス向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市・県主催の研修に出来るだけ参加し、施設運営、入居者様へのケアの向上につなげている。	認定更新時や介護保険についての質問等で連絡を取っている。介護相談員の訪問もある。運営推進会議に毎回市担当者や包括職員が参加しているが、事業所は経営を引き継いだことで、新たな協力関係を築いている段階であり、方法を模索中である。	市との協力関係の構築には、事業所の考え方や取組、実情等をよく知ってもらい、情報を共有する事が必要である。認定更新時等に事業所の現状報告や事業所だより配布で取組を伝えたり、相談できる関係作りを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、グループホーム協議会地区会などで学び、自由に出入りできる環境を作っている。	職員が身体拘束廃止推進員養成研修会に参加し、苑内研修で伝達講習を行っている。今回、設置の玄関や居室のセンサーを減らし、センサーに頼らない見守り支援に取り組んでいるが、センサー音が気になる場合がある。また、日中、玄関の施錠は行っていないが、門扉を施錠している。	代表や職員はセンサーをできるだけ取り外したが、職員の見守りや連携等を工夫し、センサーに頼らない支援の実践に期待したい。また、門扉の施錠も玄関の施錠と同様に自由な暮らしを妨げる拘束となるため、日中の開錠が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	丁寧な言葉遣いを徹底し、どうすれば不適切なケアにつながらないかを会議等で繰り返し話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が学べる機会を持てるように努めている。利用者に必要性が生じた場合には、関係者と話し合いを持ち、活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、同意を得ている。わからない事があれば、詳しく説明している。要望等も聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員を設置し、玄関や契約書に記載し、連絡が取れるようにしている。運営推進会議、面会時にご家族の意見を聞き、運営に反映している。	利用者や家族が意見を表明しやすいよう内部及び外部相談窓口を設置し説明している。運営推進会議や面会時に家族からの意見を伺い、申し送りノートに記載して全職員に周知している。なお、帰省の時期を家族が休みの時に合わせるなどの意見が反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のケア会議にて意見交換をしている。利用者の対応について話し合ったり、行事やその他仕事全般についても話す機会を設けている。	代表者や管理者は毎月のケア会議や日々の介護現場で職員との意見交換を行っており、職員からも相談しやすい環境であると意見が出ている。なお、利用者家族から職員の名前と顔が一致しないとのことで、玄関に名前入りの顔写真を貼るなど職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直し、休憩時間の確保など働きやすい環境づくりを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の苑内研修を実施し、中心となる担当者を交代制にして、資質の向上に努めている。外部研修にも積極的に参加できる体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームで地区会の開催がある。行事に招待したり、参加したりと交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に要望を聞いたり、伝えることが難しい方は、何をしたいのか考え、ご家族から情報を集め、サービスに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞くように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった際に、対応の優先順位を相談し、問題解決できるように他のサービス機関や包括支援センターに協力を頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年間行事の企画作りにもご入居様に参加していただき、必要な食材、物品などを教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の様子を写真・コメントで毎月お知らせし、要望や助言を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からのかかりつけ病院を受診する際、馴染みのスタッフから声をかけて頂いている。	職員はフェイスシートに利用者の生活歴を記載し、利用者本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を把握している。利用者のご主人が他のホームに入居しているため面会に連れて行くなどこれまでの関係維持のための支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に体操・レクリエーションなどの活動をする事が多く、お互いに励ましあいながら、楽しんでいる様子が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族へ、退去後の様子を伺う電話をしたところ、ご本人と一緒に施設への訪問があり、経過を把握することができた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい暮らしが実現できるように、個別ケアに努めている。	利用者一人ひとりの思いを把握するため、バイタル測定時や風呂で会話している。難聴などで思いの把握が困難な場合は、表情や仕草から読み取ったり、家族からの情報で判断している。把握した情報は、ケア会議で担当者から報告が行われ職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を主治医・ご家族・キーパーソンから情報収集して、ご本人が望む生活に少しでも近づけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で話し合い、個々にあった運動や簡単な家事手伝いに参加していただくなど、日常生活の充実に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を取り入れ、皆で意見を出し合って、自立支援に向けた介護計画に取り組んでいる。	フェイスシートの情報や利用者及び家族から聞き取った要望を計画作成担当者がまとめ、ケア会議で全職員の意見を聞き介護計画を作成している。見直しは半年で行われ、介護日誌やモニタリングを基に目標の進捗や問題などを洗い出し評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りに記入し、情報を共有している。中心となって支援する担当者を決めて、ケアの充実に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の要望を受け止め、極力実現できるよう話し合い、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方が慰問に来られ演奏し、利用者と一緒に歌を歌った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診に加え、以前より受診している専門医への通院支援を継続していることで、ご家族の安心も得ている。	利用者や家族の希望で以前からのかかりつけ医を継続受診している。通常、職員が通院支援を行っているが、家族が付き添うこともある。受診結果は文書で報告している。協力医療機関である内科、歯科の往診も受けられる。事業所は夜間緊急時に対応できる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の状態を記録し、ファックスで送り情報を共有している。又、皮膚科・眼科など受けた際にも、報告を行ない、情報の共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	速やかに情報提供を行なっている。また、面会に伺い、ご家族・病院関係者より情報を頂き、退院後の対応にも役立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する方針を定め、ご家族・医師・看護師を交え話し合いの方針を共有している。	重度化対応指針を作成しており、主治医を含め家族に説明を行い方針を共有している。職員には入社時に指針について説明を行っている。事例はないが、事業所は主治医や訪問看護師、家族と話し合いを重ね連携し、重度化対応や看取りに取り組む方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を会議で話し合い、勉強会を行なうように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署より避難訓練時参加して頂き、職員の意識づけをしている。訓練にはご近所の皆様の参加の呼びかけも行なっている。	年2回消防訓練を行っており、6月には消防署立会のもと、夜間想定で通報や避難経路の確認、利用者の救出方法や消火器の使用方法等の訓練を行っている。12月は警備会社を交え通報訓練と地震想定訓練も行っている。消防署からスプリンクラー設置検討のアドバイスを受けている。近隣には災害時の協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員がお互いに注意し合い、言葉遣い、対応に気をつけている。	職員は日常生活の中で利用者が自己決定できるような言葉かけを行っている。トイレ誘導では、周囲に聞こえないようにし、誘導後もトイレから離れて待つ等羞恥心に配慮し支援している。排泄チェック表を他人の目に触れない所に保管している。また、職員の守秘義務に関しては入社時に誓約書を取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で入浴後の洋服を決めたり、朝食の主食(パン・ご飯)を選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間など施設で決めるのではなく、ご自分のペースで生活出来るよう支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時は一緒に洋服を選んでおしゃれするなど、身だしなみの支援をしている。定期的に理容師さんに来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを尋ね、献立作成に役立てている。簡単な下ごしらえや後片付け等一緒に行なっている。	職員は利用者の希望を聞き、献立を作成し、利用者と一緒に配膳や盛り付け、後片付けを行っている。ひなまつり、敬老会、誕生会などの行事食、畑で収穫した作物を使った季節や旬を感じる献立には工夫があり、食事を楽しむ支援を行っている。また、朝食時間を利用者の希望に合わせて朝食が取れるようになった事例がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取状況を記録し、体調管理に努めている。水分摂取量が少ない方には、繰り返し声かけ誘導を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声かけ、誘導、介助をそれぞれの利用者に合わせて行っている。協力歯科医師による往診もいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表に記録し、尿意の無い方も時間を見てトイレ誘導を行ない、トイレにて排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を基に事前にトイレ誘導を行い失敗のないよう配慮している。これによりリハビリパンツから布パンツに改善した利用者もいる。リビングからトイレまでの廊下に白線を引きトイレがわかるように工夫し、歩ける利用者は極カトイレで排泄できるよう職員に周知支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め、果物、ヨーグルトなど通じがよくなるような物を摂っていただいている。主治医の指示のもと、便秘薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、その日以外でも希望があれば対応している。失禁時など常にシャワー浴が出来るようにしている。	最低週に2回の入浴をしているが、利用者の希望に沿った入浴支援を実施している。午前と午後で浴槽の湯の張り替えを行っている。車椅子や寝たきりの利用者も浴槽には入れるよう介助している。また、季節によってはゆず湯や入浴剤などで入浴が楽しくなるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、湿度、臭いなどに気をつけ、ゆっくり過ごす環境を整えている。一人ひとりのペースにて入床されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を介護記録ファイルに入れて、職員が確認できるようにしている。服薬管理マニュアルを作成し、誤薬を防ぐ取り組みを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な家事の手伝いをさせていただく事で、家事の一部を担う役割を果たしている。趣味や嗜好に合った音楽や歌をレクレーションに取り入れて楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物同行など外出する機会を作っている。ご近所の方がお世話していただいている畑へ出かけ、旬の食材・花などを収穫している。	月に一度はドライブを行い、週に一度は歩いて近くのスーパー等に行き物に行けるよう支援している。日常的には、自作の野菜を畑に収穫に行くなど外気に触れる程度の外出支援を実施している。ただし、車イス利用者の行事参加がほとんどできていない。	歩行ができる利用者の外出支援はできているが、車イス利用者については現状ではできていない。まずは、行事での外出に参加できるような支援を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	バザーに参加した際、ご希望のメニューお菓子を購入していただいている。支払い時には傍に居て支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の面会が比較的少ない入居者に対し、ご家族に電話をかけ、話をさせていただくように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、食堂の温度、日当たり、照明などに気配りをして、快適に過ごせるように努めている。又、干し柿、七夕飾り、クリスマスツリーなど季節を感じていただくようにしている。	リビングや食堂の温度や光・音は適度に保たれ、快適に過ごせるよう職員が管理している。リビング等の床は職員が一日に一度掃除しており清潔である。また、リビングには正月の飾りを施すなど季節感を取り入れ居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階ホール、リビングにソファがあり、気の合う方が一緒に座り、会話や歌を楽しむことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や御家族の写真、好みの飾りなど自由に持ち込んでいただき、居心地のよい居室にしている。	居室への持ち込み制限はなく、写真やテーブルセットなど本人の好みのものを自由に持ち込んでいる。掃除や換気は職員が一日に一度行い清潔に保たれている。重度化した利用者のため電動ベッドの貸し出しも行うなど居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、階段、トイレなどに手すりを設置している。トイレの場所がわかりやすいように、大きく表示し、リビングからトイレに向かう廊下に白いテープを貼り、ご自身でトイレへ行けるよう配慮している。		